

愛されることのみで 愛することを学ぶ

シンガーソングライター「成底ゆう子」の「ふるさとからの声」をご存じでしょうか。

沖縄：石垣島に生まれ、幼少から八重山民謡に親しんで育ち、音楽大学卒業後オペラ歌手を夢見てイタリアに留学するも、歌の上手な人ばかりが当たり前の環境で精神的に追いつめられ挫折し、帰国。

そんな彼女の元に、実家の両親から小包と一通の手紙が届き、手紙を読んだ彼女は涙ながらに両親に電話し、その電話でいつも遠ざけていた父から、「お前の痛みや悲しみは父さんわかっているから」という言葉に励まされ、再びピアノの前へ。

昨年秋にメジャーデビューし、先の体験を基に作られた曲が「ふるさとからの声」。

自分は大学進学で仙台に来ただけに、当地に来た頃は故郷を遠く離れた寂しさと瀬戸内海の島育ちだけにカルチャーショックが重なり授業をサボり帰省したが、両親には急な帰省の訳も問われずに温かく包み込んでもらった。

また、京阪神圏在住の高校同窓生7人が、当時新幹線はなく夜行列車の見送りに大阪駅に来てくれた。

こうした体験があるだけに、人は、いかなる時も受け入れてくれる人がいてくれると感じる（心の居場所を感じる）と元気をもらえるだけに、この曲の歌詞（一部）にあの頃をつい思い出した。

【 故郷から届いた包み 少しの野菜と缶詰と 箱の下には折りたたまれた 母の手紙がありました ……

夢見失い 泣いて 泣いて 悔しい程に 自分の弱さと向き合えず 私の夢を一緒になって 追いかけてる愛に気づいて 見慣れた文字に 涙が滲む

憧れたように 生きては行けず 思うよりも 心はもろく 耐えきれずに 夜中の電話 泣きじゃくる私に父は言う 「描いた道を 生きて行けばいい お前の涙 全部受けてやる」

泣いて 泣いて 悔しい程に 自分を信じてあげられず 話も ろくにしなかった父 一番私を信じてた 励ます声に 愛が満ちてゆく …… 】

「唯一教えることのできないことは愛すること。愛されることのみで愛することを学ぶ。」といわれる。

確かに、古今東西、愛についてあまた語られ、あまた本があるが、それらを聞き、読んだからといって、人を愛せるようになるものでない。

「人を愛する」とは、言葉や文字では教えることはできないだろうなあと、つくづく思う。